

令和元年度協働事業報告会（平成30年度事業実施分） 質疑応答

「自治・町内会活動支援のためのハンドブック作成事業」（市提案協働事業）
（かまくらっぷ / 地域のつながり課）

- Q ハンドブックについて知らない方もいると思うが、今後どう取り組んでいくか。
- A （担当課）現在、自治会・町内会の役員に向けてこのハンドブックを使って研修会を行うことやハンドブックの増刷を検討している。
- Q ヒアリングやアンケートで収集した情報がこの中に入り切れていないと思う。その辺をどうやってPRしていくか。
- A （団体）今年の1月の段階で掲載内容は100ページあったが、今回はページに限りがあったので削除した。削除した情報の扱いについては今後、地域のつながり課と相談していきたい。
- Q この事業はハンドブックを作ることが目的ではなく、世代交代と新しい人に入ってもらうことが目的であると思うが、その評価はどうされるのか。
- A （団体）自治会へハンドブックの活用方法について説明した際、世代交代の話が出ていたので、今後もヒアリングを続けていけば、対応できるのではないかと考えている。
- Q 自治会には戸建ての住宅地の自治会とマンションの自治会があると思う。活動を行う中でマンションの自治会の何か特別な苦労みたいなものがあったら教えてほしい。
- A （担当課）ヒアリング調査は、昨年度の自治会町内会の連合会の総会の場で実施したアンケートで、ヒアリング調査に協力していただけると回答した方に調査を行ったが、マンションの管理組合は了承いただけなかったため、実施できなかった。今後ハンドブックを更新するにあたり、マンションの管理組合にもヒアリングに行き、課題等を抽出できればと考えている。
- Q このハンドブックは組織運営のマニュアルだが、これからの自治会の活動テーマとして、どんなテーマが考えられるか。
- A （団体）現在鎌倉の自治会加入率は80%以上と高いが、人口減少や高齢化が進み自治会の活動も衰退していくことが予想される。そのため若い世代が入りやすい仕組みや、住民の生活を配慮した上で自治会に入れる仕組みを自治会が作っていくことで活動の停滞化が免れ、加入促進を継続することで、運営が安定していくのではないかと考えている。
- Q アンケートやヒアリングを行ったときに行政と団体でどのような役割分担をしたか。
- A （担当課）アンケートは原案を行政が作成し、団体が内容を確認して追記を行い、行政で各地区の自治会の連合会の総会で配布し、集計した。ヒアリングは行政で該当の自治会に連絡をし、団体と一緒にいたり、都合がつかないときは団体に行ってもらったりした。
- Q 事業評価シートの役割分担で団体への負担が多かったということで役割分担が△だったが、その評価について伺いたい。
- A （団体）この協働事業を行うに当たり行政の担当者が3人変わっている。その影響で現在の担当の方になる前の4月から6月までの期間が停滞したということがあった。行政内部の様々な事情があると思うが、厳しめに評価をした。また、パソコン関係で、主にデータのやりとりで上手くいかないことがあり、団体で進めてしまうことが多くなったりした。そして、確認の仕方では、行政と民間のスピードは違うこともあり、民間の感覚で出してしまったからこそ確認が遅れてしまったことがあったりしたので△をつけさせていただいた。